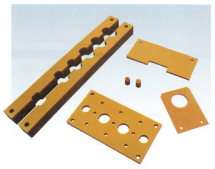
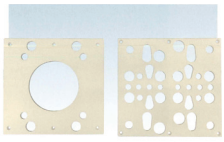
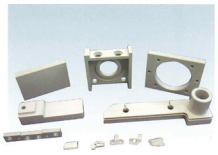
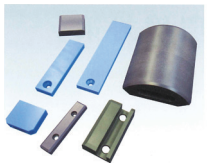
企業と人 地域を育む

「顧客の要望に専心する」を基本姿勢にプラスチックの精密加工で業界を支え続ける


■熱硬化樹脂 ベークライト


■無機質系 断熱板


■スーパーエンプラ PEEK


■熱可塑樹脂 MC ナイロン

■複雑形状加工品

■割れに強い 滑車・ローラ

プラスチックの精密加工
電気絶縁・スーパーエンプラ・断熱板

三田電気工業 株式会社

兵庫県神戸市西区見津が丘 5-5-8

代表取締役 **中村 哲哉**

1975年の創業から40年以上にわたり、プラスチックの精密加工に携わってきた『三田電気工業』。業界に先駆けて0.01ミリという精度での加工を実現してきた企業で、万全の設備と技術力には定評がある。本日はそんな同社を野村将希氏が訪問。2017年11月より代表として同社を率いる中村社長にお話を伺った。

――まずは中村社長の歩みから伺います。

兵庫県明石市の出身です。大学在学中にここ『三田電気工業』でアルバイトを始めました。その際、神田現会長から将来の夢を聞かれた私は「社長になりたい」と答えたんです。その受け答えから関心を持ってもらえたのでしょうか、「大学卒業後、うちに入社しなさい」と。アルバイト時代からこちらの仕事に魅了されていたので、卒業後は迷うことなく入社しました。そこからちょうど25年経った昨年の11月、会長に跡取りがいなかったこともあり、私が代表を引き継いで現在に至っています。

――きっと会長は当初から社長のことを見どころがあると感じておられたのでしょうね。御社はどのような業容で？

プラスチックの切削加工部品を作る会社で、社名にある「電気」は電気絶縁物を意味しています。主力製品は電力各社様や電車車両向けの絶縁部品、電力貯蔵製品・半導体製造装置向けのプラスチック部品、特装車や建設機械向けのプラスチック部品、金型の断熱板など。「iPhone X」を製造するための機械にも私共の部品が使用されているんですよ。注目されている商品や誰もが知っている商品に関わる仕事をさせていただけることは誇りであり、やり甲斐につながっています。

――どんなに小さな部品でも、それがなければ商品ができない。縁の下の力持ちですね。扱うのは小さいものが多いのですか。

小さいものから大きなものまで多彩です。しかし、どんなものでも求められるのは精度。髪の毛1本は0.1ミリの太さですがその半分ぐらいの太さの穴を空けたり、さらに小さい±0.01ミリの精度要求に応えたりと、お客様のご要望に合わせた加工を行っています。時には難しいご依頼をいただくこともありますが、会長が掲げる「顧客の要望に専心する」という社是に従い、皆様の期待に完璧に応えるべく取り組んできました。

――顧客の要望に専心する、良い言葉ですね。会長はどんな方なのでしょう。

職人気質で、社是が示す通り、お客様からの要望には決してノーと言わない、バイタリティと先見の明がある方ですね。70代後半になった今も毎日会社に来て精力的に仕事をしています。

――その精神が御社の基本姿勢として受け継がれているわけだ。代替わりをされてから、新たに取り組まれたことはありますか。

はい。人工関節など、医療分野でもプラスチックが使用されているものが多いので、社会貢献の意味でもそちらに参入していければと考えています。そのためには国際規格であるISOを取得するなど、越えなければいけないハードルもありますが、一つひとつクリアして前に進めていきたいですね。

――それは大きなチャレンジですね！

当社はスタート時から、様々なことにチャレンジしてきたんですよ。たとえば1984年には他社に先駆けてNC工作機械を導入し、プラスチックの精密加工ではこれまでにない精度を実現したりしたんです。今後もそうしたチャレンジ精神を欠かさず、規模をどんどん拡大していきたいですね。そして、「プラスチックで困ったことがあれば、『三田電気工業』に相談しよう」と言われるような信頼ある企業として皆様のお役に立っていきたいと思います！

▼0.01ミリ単位の製品加工について、実際に計測しながら野村氏に説明する中村社長（写真右）。『三田電気工業』はそうした高い精度の加工を実現できる技術力が自慢だ。

after the interview

「会社を大きく発展させてきた会長の教えを守りつつ、さらに飛躍しようとしている『三田電気工業』さん。その将来が非常に楽しみですね。私も陰ながら応援していますよ！」

野村 将希
（タレント）

© 2018 USP-Management Co., Ltd.